

支部だより

北の大地発・研究者の育成と材料科学の研鑽

北海道支部 支部長 橋本直幸*

日本金属学会北海道支部は、1947年4月に北海道大学の阿久津國造先生が初代支部長に就任されて以降、現在まで74年の歴史があり、現在は北海道在住の日本金属学会会員、北海道内における大学等の高等教育機関、北海道に拠点を持つ金属・鉄鋼関連企業、学術研究機関などの研究者、各教育機関所属学生を含め、総勢170名の研究者と共に、これまで諸先輩方によって培われた冶金・金属・鉄鋼工学、材料科学及び工学技術の更なる発展のため研鑽を積んでいます。主な研究者所属機関の内訳は、大学(北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学、北海道科学大学)、高等専門学校(旭川高専、苫小牧高専、函館高専)、企業(日本製鐵、日本製鋼所、日本製鋼所 M&E、北海道電力)、研究機関(北海道立総合研究機構)となっており(図1)、教育機関に所属する若い研究者の比率が特にながななっています。

本支部では日本鉄鋼協会北海道支部と合同で年2回の講演大会(夏季講演大会・サマーセッション、冬季講演大会：共に講演者数40～50件)を北海道大学、室蘭工業大学及び北見工業大学で開催しており、これに合わせて特別講演(2021

年7月：東大・御手洗容子先生、2019年1月：北大・鶴飼重治先生など)及び本多光太郎記念講演(2020年1月：京大・乾晴行先生、2019年1月：阪大・掛下知行先生など)も行っています。この年2回の講演大会では大学院生や企業、研究所に所属する優秀な若手研究者の発表に奨励賞(3名程度)が授与され、道内の金属・鉄鋼工学に携わる研究者は元より、若手にとって大変有意義且つ貴重な成果発表と議論の場となっています。この支部講演大会での経験と実績を活かし、春期及び夏期の全国講演大会や専門分野の国際会議などに参加するケースが一般的で、支部講演大会を若手研究者の登竜門と考えている指導者も少なくないと思います。

本支部会は、この北海道の大地で将来ある若者が大らかに逞しく育ち、道内外・国内外の学術研究機関で優秀な研究者として活躍することを願いながら、日々教育・研究に励んでおります。また、同時に、日本全国・世界各地から北海道を訪れ、共に学術研究に取り組む研究者を心より歓迎いたします。

(2021年8月4日受理)[doi:10.2320/materia.60.655]



図1 北海道支部構成団体のロゴマーク。(オンラインカラー)

* 北海道大学大学院工学研究院材料科学部門；教授